

# 大阪インターカレッジコープ 大阪府生協連と協同する「食の支援」



【健康と安全】

## 取り組み概要

日時：12/8～12/23, 5/26,29,31,6/1  
場所：辻調理師専門学校・大阪キリスト教短期大学・関西社会福祉専門学校  
参加者数や組合員の反応：  
配布した食料セット…計400

背景や概要：  
大阪府生協連が持っていた、新型コロナウイルス感染症の自宅療養者向け食品セットの余剰分を、大阪インターカレッジコープから希望者へ、直接届けることとなった。

店舗を用いない「食の支援」のあり方

### POINT.1

### 他生協 / 各大学・学校と協同する学生支援



大阪インターカレッジコープと大阪府生協連が協同で実施した「食の支援」は、22年12月と23年5,6月の2回行われました。初回は300セット、第2回は100セットが、それぞれ配布されました。

多数の学生、教職員らを組合員に持つ大阪インターカレッジコープですが、実店舗はありません。そのため、実際に生協職員が学校へ赴き、各大学・学校の職員とも協力して、直に組合員へ配布することで、店舗を用いずに食の支援を実現していました。

### POINT.2

### 教職員理事との協同

各大学・学校専属の生協職員がいないインカレだからこそ、教職員理事との協力は必要不可欠です。インカレの理事会は出席率が高く、参加者ほぼ全員がカメラオンの状態で参加しています。取り組み前の理事会において各理事へ協力を仰いでいる部分も、教訓的です。

また、元々2校予定だったところに関西社会福祉専門学校が加わったのは、理事会における教員理事からのコメントがきっかけです。理事からの発言が取り組みと直に結びついている部分も教訓的です。



### POINT.3

### 食支援のおかげで、まだまだ頑張れる気がした



開始時刻よりも前に学生が50人以上列をなして待っていたところや、配布予定のもの全てを配布しきったところもあるなど、学生にとって非常にニーズの高い取り組みとなっていました。このような、学生の明日の生活を支える取り組みを継続し、それを広めていくことが、「ともにささえあう大学生協」の実現に繋がるのではないのでしょうか。アンケートより、留学生の言葉です。「大変な時に助けをもらって泣くくらい感動した。日本という国、人たちのやさしさ、思いやりに本当に感動した。最近ガスなど物価高騰、学校もしんどいし、夜もなかなか寝付けない。食支援のおかげで、まだまだ頑張れる気がした」

つながる元気、ときめきキャンパス。



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

ご質問や[ K's NEWS ]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！  
ブロック学生事務局 [ 末廣 千翔 ]  
Suehiro.Yukito@univ.coop